

# フラワーガーデン



園芸総合センター  
竹内小百合

## 嵯峨ギクの7・5・3つくり

### 一 嵯峨ギクの由来

嵯峨ギクは、嵯峨天皇が上皇となつて、嵯峨に大覚寺を造営したとき、境内の大沢池にある島に咲いていたノギクに目をとめ、そのノギクがあまりにも美しかったので、嵯峨ギクと名付けたことに由来しています。

以来、嵯峨ギクは嵯峨・大覚寺のキクとして、門外不出とされ、嵯峨の地で受け継がれ、改良され、今日の嵯峨ギク特有の花形が作出されたものと思われまます。

戦後、嵯峨ギクは一時期復活したものの、衰退傾向となりました。しかし、平成二年に京都府が「京都の花」に指定、普及を図ることによって、京都を中心に、切り花や、ポット仕立てで、広く親しまれ

るようになりました。

### 二 嵯峨ギクの特徴

①葉は薄く、切れ込みが深く、小葉で、茎は細く、ノギクに似ています。

②花卉は平弁で、一花の弁数は、四〇〜一〇〇枚程度で弁長は六〜十cm、花色は赤、黄、桃、白があります。

③花の咲き方は、はじめ花卉が絡み合い、乱れて出ますが、花卉が伸びるに従つて、花心を開き、次第に直立して花組を作り、後下垂して終期を迎えます。

### 三 7・5・3作りとは

戦後、大覚寺の要望により、嵯峨ギク保存会の人々によって考案された、嵯峨地方独特の栽培方法です(図一)。

一鉢に三本仕立てとし、長さは約二mにします。これらは殿上から観賞するのに有利なように育てます。花は先端に三輪、中程に五輪、下に七輪で七・五・三とし、葉は下方を黄色に、中程は濃緑、上方は淡緑となるようにします。

觀賞法も独特で、花または淡緑の葉を春、濃緑の葉を夏、紅葉を秋、枯葉を冬と見立てて、四季を感じ、過ぎし年を思い返しながら觀賞します。

### 四 7・5・3作りのつくり方

#### ①挿し芽

五月一日前後に行います。挿し芽用箱は、四〜五cmぐらいの深さの箱を用い、挿し芽苗は前日に五〜六cmぐらいに切り、切り口を揃えて一晩水揚げします。用土は細

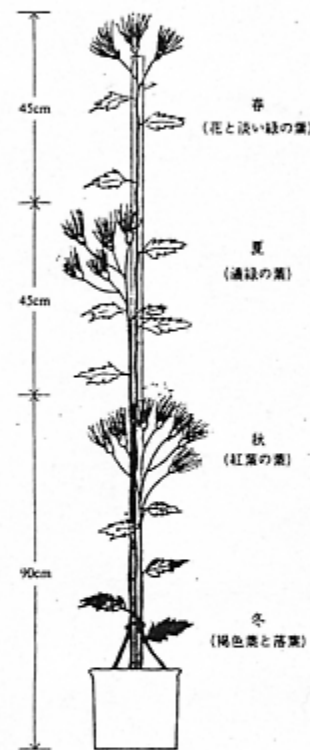


図1 嵯峨ギクの7・5・3作り

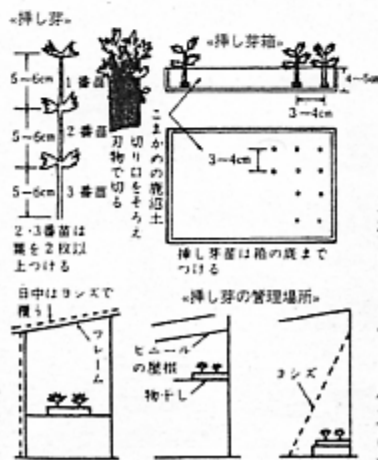


図2 挿し芽の方法

3本の苗をまとめて  
籾竹に結わえる

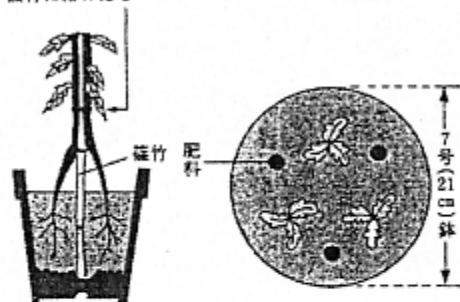


図3 本鉢植え込み方法

かめの鹿沼土を用います。挿し芽の間隔は三〜四cm、その際、挿し芽苗は箱の底に届くまで差し込みます。挿し芽後、目の細かいジョウロで底より水が流れる位たっぷり水をかけ、しばらく時間をおいて日陰に置きます。日中しおれていても朝、元気よく水揚げしていれば大丈夫なので、三〜四日は水をやらすにおきます(図二)。

### ②本鉢植え込み

挿し芽から十四〜二十日ほどで発根します。その後二〜三日ほど外に出して馴化します。そして七号鉢に植え込みます。用土は川砂

③施肥と切り込み  
本鉢に植え込み後、十〜十五日くらいで第一回目の施肥をします。I B化成を十粒程度おき、六月下旬から七月上旬までに第二回目を同様に行います。そして、八月中旬(十五〜二十日まで)に切り込みを行います(図四)。その場合、あまり遅く切り込むと、花期に蕾

一、田土(畑土)五、腐葉土三、くん炭一で配合したものをいります。植え込んだら水を充分やり、用土の上に水苔を敷き、三日くらいは水をやらないようにします。それから二日おきに一日一回灌水します。その後、三〇cmくらい伸びた頃、鉢の中央に支柱を立て、鉢上より十五cmくらいの所で一番芽を三本一つにまとめてくりま

④芽かき  
八月末〜九月末までは、側芽が次々に発生しますので、早めに摘み取ります。  
⑤花の咲かせ方  
一段目は三輪、二段目は五輪、三段目は七輪ですが、三段目の七輪は一本の幹から七輪もつれることは難しいので、二本の幹で七輪の花を咲かせると良いです(図五)。

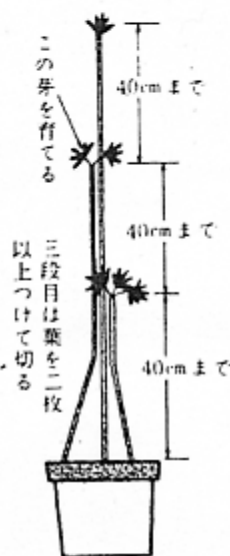


図4 切り込み方法

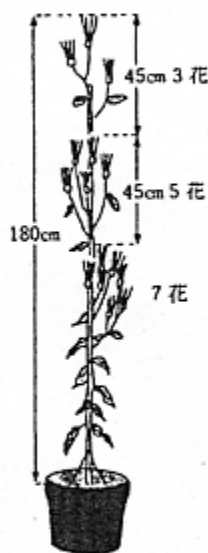
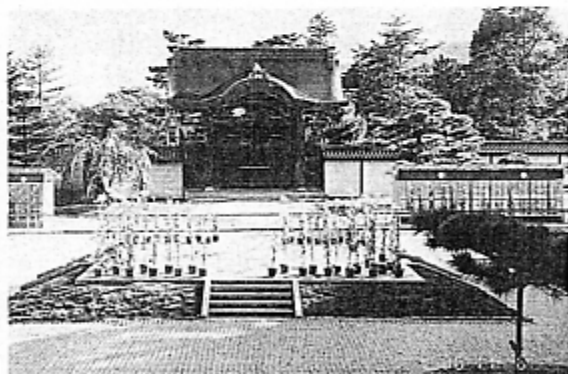
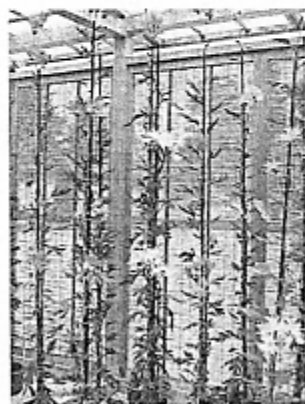


図5 花の咲かせ方



◀大覚寺 嵯峨ギク展